

# 健診・人間ドック市場に関する調査結果 2013

## 【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて、国内健診・人間ドック市場に関する調査を実施した。

1. 調査期間：2013年9月～12月
2. 調査対象：健診センター、健診・人間ドックを実施している病院・診療所等
3. 調査方法：当社専門研究員による直接面談、郵送によるアンケート調査、電話によるヒアリング、文献調査併用

### ＜健診・人間ドック市場とは＞

本調査における健診・人間ドック市場とは、40歳以上74歳以下の国民が受診する特定健康診査（特定健診）、自治体実施するがん検診、労働安全衛生法に基づき企業・団体等が従業員向けに行う定期健康診断、母子保健法・学校保健法などに基づく健康診断等の法定健診と、利用者が任意で受診する人間ドック等の任意健診に関する市場を対象とする。

## 【調査結果サマリー】

### ◆ 2011年度は特定健診、任意健診いずれも受診者増、延べ総受診者数は1億800万人

健診・人間ドックの延べ総受診者数は2009年度1億590万人であったが、2011年度には1億800万人まで増加した。

### ◆ 人間ドックにおけるオプション検査や、

#### 乳がん・子宮がん・大腸がん検診などが市場を牽引

地方自治体からの無料クーポン券の配布を受け、乳がん・子宮頸がん検診や大腸がん検診の受診者数は増加、さらに健診施設が、受診者の選択により検査項目や料金が設定できる「オプション検査」の充実を図ったことにより、人間ドックの受診者も増え、特定健診、任意健診のいずれも受診者数が増加し市場を牽引した。

### ◆ 受診単価は低下するも受診対象者の増加、検査項目の多様化により

#### 健診・人間ドック市場規模は横ばいを予測

健康保険組合等の保険者の財政難と、複数の保険者と健診実施施設とが契約する「集合契約」の増加により、受診単価は低下傾向であるが、受診対象者数の増加は今後も続くため、健診・人間ドック市場規模は、2011年度の9,200億円から2012年度以降9,100億円前後のほぼ横ばいで推移するものと予測する。

### ◆ 資料体裁

資料名：「健診・人間ドック市場の実態と展望 2014年版」  
 発刊日：2014年1月17日  
 体裁：A4判 321頁  
 定価：120,000円（税別）

### ◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地：東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長：水越 孝

設立：1958年3月 年間レポート発刊：約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

㈱矢野経済研究所 営業本部 広報チーム TEL：03-5371-6912 E-mail: [press@yano.co.jp](mailto:press@yano.co.jp)

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。  
 本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報チーム迄お問合せ下さい。

## 【 調査結果の概要 】

### 1. 健診・人間ドックの現状～特定健診、がん検診、人間ドックいずれも受診者数は増加

厚生労働省のデータによると、2008年度に導入されたメタボリックシンドロームの予防を目的にした「特定基本健康診査・特定保健指導（以下、『特定健診・特定保健指導』という）」における受診対象者数（40歳以上74歳以下人口）は増加、受診率（実施率）も制度開始直後の2008年度38.3%に対し、2009年度41.3%、2010年度43.2%、2011年度45.0%と年々上昇しており、受診者数は増加傾向にある。

また地方自治体からの無料クーポン券の配布を受け、2009年度および2010年度は乳がん・子宮頸がん検診の受診者数が増加、2011年度には大腸がん検診の受診者数が拡大した。

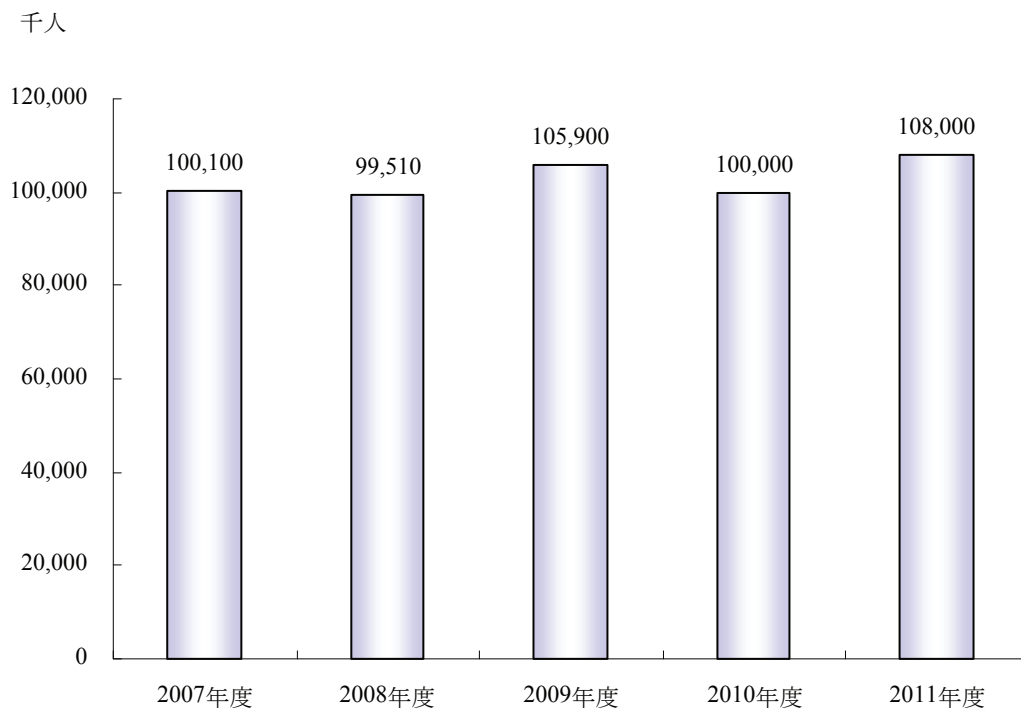
さらには健診施設が、受診者の選択により検査項目や料金を設定できる「オプション検査」の充実を図ったことにより、人間ドックの受診者が増え、健診・人間ドックの延べ総受診者数は2011年度に1億800万人を推計する（図1参照）。

### 2. 注目すべき動向 ～受診者のニーズに応える豊富なオプション検査、受診単価にも好影響

受診者数は増加傾向であるが、受診単価については、健康保険組合等の保険者の財政難と、契約代行機関が仲介し複数の健診施設・保険者間の健診契約を結ぶ「集合契約」の増加を背景に、特定健診などの法定健診の単価は低下傾向にある。

また個人が任意で受ける人間ドックについては保険者による補助率は低下しているが、健診施設は、受診者の選択できる「オプション検査」のメニューを充実させ、基本的な検査項目・各オプション検査を組み合わせる人間ドックを受診してもらうことで、受診者の個々のニーズに応じている。その結果、受診者の獲得や、受診単価の維持、単価上昇などといった好影響を受けている。

図1. 健診・人間ドック総受診者数推移



矢野経済研究所推計

注1. 延べ総受診者数ベース

注2. 2010年度には東日本大震災の影響を受けた岩手県、宮城県、福島県の一部地域のデータを含まない

### 3. 将来予測 ～受診単価の大幅拡大は望めないものの、受診者数増加により市場は横ばい

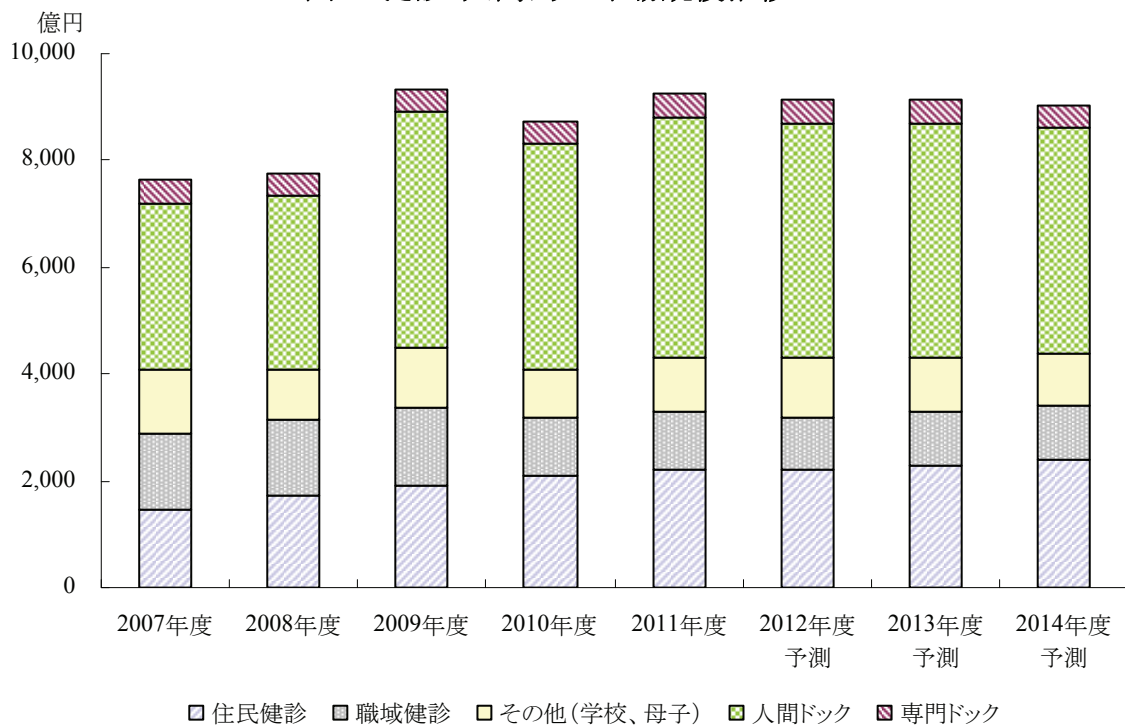
本調査に関連したアンケート調査結果によると、今後注力したい健診・検診分野について、健診施設に複数回答で尋ねたところ「人間ドック」との回答比率が最も高かった\*。人口高齢化や消費者の健康志向の高まりなどを背景に、今後も人間ドックの受診者数は増えることが予想される。

一方で、保険者の財政難による補助の削減などにより、人間ドックのコース・価格設定は一層多様化すると考える。

特定健診・特定保健指導の受診率(実施率)の引き上げは容易ではないが、40歳以上74歳以下の人口増、すなわち受診対象者数の増加は今後も続くことが想定される。受診対象者数の増加は健診単価の低下を補い、健診・人間ドック市場規模は、2011年度の9,200億円から2012年度以降9,100億円前後のほぼ横ばいで推移するものと予測する(図2参照)。

\*調査期間;2013年11~12月、調査対象(集計対象);全国健康保険協会(協会けんぽ)の生活習慣病予防健診実施施設83施設、今後注力したい健診・検診分野について複数回答、調査方法;郵送アンケート

図2. 健診・人間ドック市場規模推移



矢野経済研究所推計

注3. 健診(受診)金額ベース、地方自治体や健康保険組合からの補助を含む

注4. 特定健診は含むが、特定保健指導を除く

注5. 2010年度には東日本大震災の影響を受けた岩手県、宮城県、福島県の一部地域のデータを含まない